

地域文化財と大学博物館を活用した人材育成 —小学生を中心とした地域の歴史探訪と体験教室を通して—

別府大学文学部史学文化財学科3年 有馬悠樹 楠瑛登

○本事業の課題・目的について

文化財は本来、地域の歴史を学び、自己を形成する一部となりうるものである。しかし現状、日常生活から乖離した特別なものという認識が強く、地域住民は地域社会の歴史を認識することのないまま、文化財を次世代へ継承するという意識が希薄となるのは必至である。この問題を解決するために、幼少期から文化財を身近に感じる機会を多くすることで、文化財を日常生活の中で常に意識し、そばにあるもの、という認識をもってもらうことを目的として活動を行う。

○課題解決方法

目的を達成する活動として、別府市内の小学生を主な対象に設定し、**別府大学附属博物館(以下、附属博物館)**をコアとした周辺の遺跡や文化財を活用したイベントを行うこととした。具体的には、令和6年8月10日、11日、附属博物館にて、勾玉づくりと古銭製作の体験活動を行った後、9月28日にフィールドワークとして、附属博物館と鬼ノ岩屋古墳の見学及び学生による解説を行った。

- ①勾玉づくり
 - ②古銭製作
- 附属博物館体験活動**
- ③附属博物館周辺遺跡見学(フィールドワーク)



勾玉づくり



古銭製作



展示解説



展示質問回答



パズル



ハンズオン

- ・附属博物館特別展見学、解説
- ・鬼ノ岩屋古墳見学、解説

①勾玉づくり

紙やすりを用いて滑石を加工。学生が教えてまわり、楽しんでもらった。当初、定員初15組を想定していたが、19組40名の方が参加してくださった。

②古銭製作

低熔融金属を用いた鋳造により製作。流し込む作業が特に興味を惹いていた。



③附属博物館周辺遺跡見学(フィールドワーク)

特別展「装飾古墳の世界」見学解説
↓
ハンズオンやパズル、質問回答を通して交流
↓
実際に鬼ノ岩屋古墳を見学解説



○参加者の感想

- ・博物館を身近に感じる事ができた、
- ・博物館に興味をもち、またこのようなイベントに参加したい。
- ・別府市の古墳について初めて知った。



鬼ノ岩屋古墳見学



鬼ノ岩屋古墳 交流

想定よりも多くの方が参加し、学生と地域住民の活発な交流が行われた。博物館や文化財を初めて知った方や興味をもってくれた方の声が寄せられており、これからも、博物館、文化財と触れ合える機会を提供し続けていきたいと考えている。

○成果

当初想定していたよりも多くの地域住民の方が参加していただき、イベントは大盛況に終わった。今回のイベントをきっかけに文化財、博物館を身近なものに感じてもらうことができ、興味を持ってもらった。

また、学生側にとっても良い経験となり、学びを得られる貴重な機会となった。



鬼ノ岩屋古墳 解説



特別展 ポスター